

第1回全国自給飼料生産コンクール出品財の概要

農林水産大臣賞（放牧部門 肉用牛繁殖経営）

出品者氏名	県名	出品財(放牧)		家畜飼養頭数(頭)					飼料作物作付面積(a)			労働力	平均分娩 間隔	子牛1日 当DG
		草種	面積(a)	畜種名	成牛	育成牛	子牛	計	永年牧草	その他	計			
(有)富貴茶園 永松英治 氏	大分県	バヒアグラス	1,200	肉用牛	18	9	13	40	1,200	0	1,200	家族 0.9 雇用 0.1	ヵ月 13.5(H24)	kg 1.02(去勢)
経営の概要	<p>(有)富貴茶園はお茶を本業としているが、冬季の余剰労働力と広大な荒廃茶園及び耕作放棄地の解消策として、県振興局の普及・指導を受けて肉用繁殖牛の放牧に取り組んだ。平成17年に県の「レンタカウ制度」を利用して3頭から始めた肉用牛放牧が、現在、繁殖牛20頭を飼養するまでになっている。荒廃茶園に周辺林地を取り込んで低コスト・省力的で創意工夫に富んだ周年放牧体系を確立し、安定した肉用牛繁殖経営を実践している。将来的には繁殖牛50頭規模を目標に規模拡大の途上にある。</p> <p>自力で開墾したバヒアグラス草地12haを使い、子牛を出荷するまで親子で周年放牧を行う例は地域でも他になく、耕作放棄地の解消方策としての先駆的な実証事例となっている。粗飼料の自給率は80%で、冬季は地域のコントラクターから購入したイネWCSを給与する。「西高の農地を守る放牧の会」の代表を務め、地域農業の振興や後継者の育成にも力を注いでいる。九州大学、県振興局等の協力により放牧提案や導入牛の選定、周辺住民への理解醸成などの的確な技術的支援・指導が行われている。</p> <p>全頭親子放牧で給餌・捕獲のための簡素な施設しかなく、畜産部門の保有農機具は飼料作物の刈り取りによる収穫がないため軽トラック等わずかで、年間ほぼ1人の労働力で全頭放牧を基本に施設や機械等の投資を極力抑えながら、自己資金を活用して計画的に拡大を進めている。規模拡大の途上であるが、販売子牛1頭当たり生産コストが全国平均の半分以下という低コストな生産に努めており、子牛相場下落にも影響されない安定した経営を持続している。</p>													

農林水産省生産局長賞（放牧部門 酪農経営）

出品者氏名	県名	出品財(放牧)		家畜飼養頭数(頭)				飼料作物作付面積(a)			労働力	平均分娩 間隔	1頭当 産乳量	
		草種(品種)	面積(a)	畜種名	成牛	育成牛	子牛	計	永年牧草	その他				計
吉川友二氏 吉川千枝氏	北海道	チモン(ホクエイ) オーチャード(ホク) 白クローバー 他	7,200	乳用牛	46.2	23	23	92.2	7,200	0	7,200	家族 1.8 雇用 1.0	カ月 11.9 (H24)	kg 6,519
経営の概要	<p>ニュージーランドで放牧酪農を体験し、平成13年に既存牧場を承継して新規就農した。経営の特徴は、徹底した放牧管理にある。粗飼料の自給率は100%であり、放牧による周年屋外飼養を基本として、化学肥料を使用しない自然循環型の有機酪農を目指している。マメ科牧草の追播と苦土炭カル施肥によりミネラルバランスを保ちながら、放牧と購入堆肥によって草地密度を維持している。季節繁殖を行って早春に分娩を集中させ、草の生長曲線と牛の泌乳ステージを合致させた牛乳生産により厳寒の1~2月は搾乳を行わない季節生産を行い、1頭当たり搾乳量は低い、高所得を実現している。チーズやヨーグルトの製造・販売等の6次産業化を志向するとともに足寄町放牧酪農研究会や新規就農の会の会長を務めるなど地域の活性化にも尽力しており活躍の幅は広い。</p>													

農林水産省生産局長賞（飼料生産部門 肉用牛繁殖経営、飼料用米生産）

出品者氏名	県名	出品財(飼料生産)		家畜飼養頭数(頭)				飼料作物作付面積(a)			労働力	平均分娩 間隔	10a当収 量(粃米)	
		草種(品種)	面積(a)	畜種名	成牛	育成牛	子牛	計	飼料用米	その他				計
福澤 秀雄氏 福澤千代子氏	青森県	飼料用米(ミナユタカ)	900	肉用牛	22	2	15	39	895 SGS利用	2,582 牧草・イネWCS	3,477 (借地3,344)	家族 2.0 雇用 0.1	カ月 12.4	kg 535
経営の概要	<p>黒毛和種の繁殖農家で、飼料生産基盤として牧草14.6ha、えん麦8ha、イネWCS3.2ha、稲SGS9haを確保している。飼料生産は集落の水稲農家との共同作業で実施しており、無理のない経営を実践している。地域は県内有数の畜産主産地であるが、飼料高や高齢化、耕作放棄地などの課題を抱えていたため、福澤氏は耕作放棄水田の集積を図り、飼料作物を作付けて高齢の畜産農家へ粗飼料を安価で提供するなどの取組みを行い、地域農業の活性化と発展に貢献しており、経営耕地面積のほとんどが借地である。また、水稲栽培の低コスト化・省力化に向けた鉄コーティングによる直播栽培や濃厚飼料費節減のための飼料用米の稲SGS(ソフトグレインサイレージ)を取り入れ、先取的技術の地域への普及拡大に努めている。</p>													

農林水産省生産局長賞（飼料生産部門 飼料生産受託組織[コントラクター]）

出品者氏名	県名	出品財(飼料生産)		飼料生産受託等						受託農家等			従事者	
		草種	面積(a)	受託戸数	面積	トウモロコシ	同左地域シェア	イネWCS	同左地域シェア	酪農	同左地域シェア	肉牛繁殖		
(株)興陽農援 久留一雄氏	熊本県	トウモロコシ、飼料イネ ソルゴー	21,000	118 (H25年)	ha 210	ha 86.4	% 23.7	ha 114.7	% 8.2	戸 44	% 36.4	53戸 シェア 8.9%	職員3人 雇用6人	
経営の概要	<p>建設会社を母体に設立された飼料生産受託組織(コントラクター)で、地域の酪農家や肉牛農家を中心にトウモロコシや飼料イネWCSの受託生産を行うほか、耕種農家からの受託も行って耕畜連携の要ともなっている。生産されるラップサイレージは丁寧な仕事による高品質な製品であり、畜産農家からの信頼が厚く、年々受託面積を増やしており、最近では耕作放棄地の作付依頼や県外からの作業依頼も増えている。地域内のコントラクターとして先導的な役割を果たすとともに、地域の飼料生産労働力不足を補い、農家の機械への過剰投資抑制や耕作放棄地解消の一翼を担うなど、異業種からの農業参入ではあるが地域農業への貢献度は高い。</p>													

一般社団法人日本草地畜産種子協会会長賞（飼料生産部門 酪農経営）

出品者氏名	県名	出品財(飼料作物)		家畜飼養頭数(頭)				飼料作物作付面積(a)			労働力	平均分娩 間隔	1頭当 産乳量	
		草種(品種)	面積(a)	畜種名	成牛	育成牛	子牛	計	トウモロコシ	その他				計
上森 亨 氏 上森叔恵 氏	岡山県	トウモロコシ(KD777) イタリアン(イヌマ)、 飼料ヒエ、スーダン	334	乳用牛	33	20	6	52	131 (借地88)	595 (借地426)	726 (借地514)	家族 3.5	ヵ月 12.8	kg 9,223
経営の概要	<p>祖父から経営を継承した20代の若い酪農家。経営地は中山間の条件不利地であり、棚田状の田畑に囲まれて大幅な土地拡大が見込めず、粗飼料自給率は50%弱である。このような地域で耕作を中止した田畑を借受けて二毛作により生産効率を高め、堆肥を十分活用するとともに土壌診断によるpH調整などで収量増加に努めており、経営耕地面積の多くは借地である。無理な規模拡大は行わず、施設・機械の過剰投資を避けるなど堅実な経営を行っている。また、地域の農業経営者クラブの役員を務め、近隣の耕種農家と連携しイネWCSの利用や乳質改善運動を推進するなど、若手ながら地域酪農家のリーダー的存在となっている。</p>													

一般社団法人日本草地畜産種子協会会長賞（飼料生産部門 飼料生産受託組織 飼料用米生産）

出品者氏名	県名	出品財(飼料生産)		受託等		飼料生産		飼料用米生産費(出品ほ場)試算			従事者	飼料用米 の利用先	10a当収 量(粳米)
		草種(品種)	面積(a)	受託戸数	面積	イネWCS	飼料用米	収量(粳米)	生産費	粳米kg当			
(農)川西 小林紀代士 氏	山口県	飼料用米(ホシアオ ハ)	587	158	ha 106		ha 約20	kg/10a 775	円/10a 66,250	円/kg 85.5	職員50人 雇用2人	大型畜産 法人	kg 775
経営の概要	<p>ほ場整備事業を契機にそれまでの不整形で分散していた集落内の水田を大区画化し、高齢で不耕作となった農地を集積して集落内の農家に作業委託する集落営農型の農事組合法人である。農地の利用率200%を目標に麦、大豆等の二毛作とともに飼料用米やイネWCSの作付を行っている。飼料用米は、実需者(畜産農家)へ出荷され、畜産農家からの堆肥は水田へ還元される。これらの調整・指導等については、試験研究機関、県、JA、飼料会社、イネWCSコントラクターが地域コンプレックスを形成し、地域内での耕畜連携体制が構築されている。山口県飼料用米推進協議会主催の飼料用米共励会では、出品財の多収性が評価され平成25年度最優秀賞を受賞している。</p>												

一般社団法人日本草地畜産種子協会会長賞（飼料生産部門 飼料用米生産）

出品者氏名	WCS	出品財(飼料生産)		経営面積(ha)				飼料用米生産費(出品ほ場)試算			労働力	飼料用米 の利用先	10a当収 量(粳米)	
		草種(品種)	面積(a)	飼料用米	水稲	イネWCS	その他	計	収量(粳米)	生産費				粳米kg当
海地博志 氏	山口県	飼料用米(北陸 193号)	20	2.3	3.0	1.5	0.15	7.0	kg/10a 771	円/10a 51,688	円/kg 67.0	家族 1.0	大型畜産 法人	kg 771
経営の概要	<p>定年退職後に専業農家となり、集落内の分散した高齢者の水田耕作や食用米乾燥調整などを請負っている。食用米の収穫時期が集中して作業困難となるので、作期が調整できる飼料用米を取り入れた。現在では集落内の生産組合を組織して代表者として活躍している。平成25年度には食用水稲のほか飼料用米2.3ha、WCS用イネ1.5haを生産している。(農)川西と同様に地域内の耕畜連携体制の中で飼料用米を供給し鶏糞堆肥の給付を受けている。WCS用イネはコントラクターによる収穫後に地域の酪農組合へ供給される。飼料用米共励会では毎年優秀な成績を収めており、飼料用米の安定多収生産を実現している。</p>													